



SGN News



第43号 2024年3月
滋賀グリーン活動ネットワーク
ニュース

～滋賀から「グリーン経済」をつくる～

連携推進事業 グリーン経済フォーラム2023

今求められるパラダイムシフト『サーキュラーエコノミー』

～廃棄物を減らす、無くす、資源にするモノづくり～

【会場(ピアザ淡海 3階 305会議室)と オンライン(ZOOM使用)の併催】開催報告

プログラム

- 開会挨拶 秋山 道雄 (SGN会長)
- 基調講演 「サーキュラーエコノミー：グローバルで捉え、ローカルへ」
田崎 智宏氏 (国立環境研究所 資源循環社会システム研究室 室長)
- 県の説明 「循環型社会の実現に向けて～
『しがプラスチックチャレンジプロジェクト』をスタート!」
野村 俊夫氏 (滋賀県 琵琶湖環境部 循環社会推進課 資源循環推進係 係長)
- 事例報告1 「びわこの水草が厄介者から貴重な資源に」
本江 宗明氏 (WEF 技術開発株式会社 環境関連 顧問)
- 事例報告2 「地域のecoプラットフォームづくり」
瀧澤 嘉次氏 (ティーエムエルデ株式会社 営業企画部 部長)
- 事例報告3 「SDGs達成に向けての廃棄物バスターズの取り組みと今後の展望」
澤田 奎湖氏 (滋賀県立大学 廃棄物バスターズ 代表)
- 質疑応答・ディスカッション
コーディネーター：徳満 勝久氏 (滋賀県立大学 工学部 材料化学科 教授/SGNアドバイザー)

- ◆開催日：2023年11月14日(火)
- ◆参加者：約65名



田崎 智宏氏 野村 俊夫氏 本江 宗明氏



瀧澤 嘉次氏 澤田 奎湖氏 徳満 勝久氏

2023年7月の世界の平均気温は観測史上最高となり、温暖化ではなく沸騰化の時代に入りました。CO₂ネットゼロ社会を実現する上で、GX（グリーントランスフォーメーション）は必須であり、併せて経済活動をリニア（直線）型から廃棄物を出さないサーキュラーエコノミー（以下：CE）への転換は急務です。このCE実現に欠かせない、製品の開発段階での配慮と、製品を選ぶ消費者の意識やライフスタイルについて、包括的な説明と事業者の事例報告をいただくことで、企業経営にとってもCEへのパラダイムシフトが必要不可欠となることを認識してもらうと同時に、SGNが普及啓発をすすめている「グリーン購入」の考え方がCE実現にも欠かせない基本姿勢であることを再認識するために本フォーラムを開催いたしました。

基調講演「サーキュラーエコノミー：グローバルで捉え、ローカルへ」 田崎 智宏氏

サーキュラーエコノミー（CE）に関わる世界的潮流について、更にローカルでのアクションの障壁となるものと戦略的アクションについてお話いただきました。前者では世界は次なる時代に突入し、低炭素は脱炭素に、3RはCEへと、対症療法の時代から根本療法の時代へと移り、持続的に資源を調達して経済を続けるためpush型（廃棄物を何となくサイクルに持っていく）のリサイクルからpull型（生産者が使う素材をリサイクル材に変える）のリサイクルへのシフトが必要で、後者は購入素材調達から資源循環を考える点で「グリーン購入」の実践が重要になり、リサイクル法の前にグリーン購入法があるという認識が必要であるとのことでした。また、CEをローカルで実現する鍵となる4つのX（トランスフォーメーション）として、バイオ・ベースド技術（Bio-basedX）、デジタル技術（DigitalX）、高品質循環技術（CircularX）、協働実施・制度体制構築（ActionX）を挙げられ、特にAXにあたる企業間の協働が必須であり、その事例等を紹介いただくと同時に、「将来の人々の立場で考える」というアプローチが必要であると結ばれました。

INDEX



●グリーン経済フォーラム2023	1
●新役員紹介	2
●活動レポート1	3
●活動レポート2	4
●ピックアップ! 生物多様性	5
●SGN会員でつながりレートーク 株式会社ラーゴ 生物多様性研究室	6

●今さら聞けない環境用語集	6
●潮流『しがプラスチックチャレンジプロジェクト ～毎月1日は「しがプラチャレンジの日」です!～』	7
●新規会員からひとこと	7
●会員発工コ商品情報	8
●啓発資材の仲間が増えました	8

県の説明「循環型社会の実現に向けて～

『しがプラスチックチャレンジプロジェクト』をスタート!」 野村 俊夫氏

国においてR6（2024）年策定予定の「第五次循環型社会形成推進計画」ならびに県においてR3（2021）年に策定された「第五次滋賀県廃棄物処理計画」について説明いただき、事業者の取組を促進するための県の取組や事業者が使える補助金等を紹介いただきました。また、さらなるプラごみ削減実践に繋げる施策として、ライフスタイルの転換を後押しするためにこの10月からスタートした「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」や、「プラスチック代替製品ガイドブック」についてもご紹介いただき、サーキュラーエコノミーの実現を目指す滋賀県の姿勢を示していただきました。

事例報告1「びわこの水草が厄介者から貴重な資源に」 本江 宗明氏

昔は肥料や土壌改良材等の貴重な資源として利用されていた「水草」が、化学肥料の広まりによってその役割を終えたことで「びわ湖の厄介者」となった一方で、これを昔のように貴重な資源とする努力や試みが続けられ、たどり着いたのが「活性酸素」による有機物処理であり、この技術では今までにないスピードで水草の堆肥化ができ、かつ、肥料としての効果も非常に高いと紹介いただきました。活性酸素を利用することで、①堆肥化の工程で大幅にCO₂の発生量を削減 ②農業残渣の堆肥化リサイクル ③雑草の種子の不活性化 ④危険農薬の使用を抑えた活性酸素土壌殺菌 などの環境農業（持続可能な農業）の構築を目指しており、現在は世界12か国から活性酸素処理システム導入・販売の問合せが来ているとのこと。「世界が減びても最後まで残る地域を目指す」との言葉が印象的でした。

事例報告2「地域のECOプラットフォームづくり」 瀧澤 嘉次氏

自社の代表的な取組として12年前からはじめられている「店頭回収システムecoひろば」を中心に説明いただきました。ecoに繋がる様々なアクション（行動）をポイント化することで、参加する人が参加しやすく、また、参加したくなる仕組みづくりをハード面（飲料容器自動回収機の運用）とソフト面（エコ・アクション・ポイント）の両面から進めてこられた事業モデルと取組への想い等を紹介いただきました。

事例報告3「SDGs達成に向けての廃棄物バスターズの取り組みと今後の展望」 澤田 奎湖氏

学生団体として行っているサーキュラーエコノミーに繋がる活動として、①プラスチックのマテリアルリサイクル事業（廃プラスチックからリサイクルプランターや雨水タンクの作製） ②hana-wa活動（リサイクルプランターを媒体に福祉課題にも取組んだ活動） ③有機複合材料研究の紹介（長期使用を前提条件とした材料開発の研究） ④淡海環境保全財団との協働事業（啓発動画の作成）について紹介いただきました。また、2050年に社会の中心世代となる若者の考えとして、なりたい未来「完全循環型社会」からバックキャストし、その実現が可能であることを現在進行中の研究や開発事例から説明いただきました。

パネルディスカッション コーディネーター：徳満 勝久氏

講演後のパネルディスカッションでは、滋賀県立大学 工学部 教授でSGNアドバイザーの徳満 勝久 氏のコーディネートで議論が進みました。参加者から「人口減少に関連して起こる廃棄物処理の新たな課題と解決方法について、またそれを実践することは今より豊かになることに繋がるのか」との質問に、田崎氏からは、今後は既にあるものを価値ある形で使っていく社会となる、そのために市町村を超えての取組が必要、また何をもって「豊かである」とするかについて、今後「豊かである」価値観自体が変わってくるのではないかとコメントをいただきました。その他、国と自治体のプラスチックに対する方針について、自治体やそれ以外による容器回収後のリサイクル先について、若者は未来への不安はないのか、水草堆肥事業の進行状況などの質問が出されました。またCEの実現に向けて、かつての「せっけん運動」レベルの大きな潮流を作るのに必要な事についてのディスカッションも行われました。



一般社団法人
滋賀グリーン活動ネットワーク

新役員紹介

8月29日に開催した
第13回臨時会員総会にて
ご就任いただきました。



公益財団法人 淡海環境保全財団

理事長 高木 浩文

琵琶湖をはじめとする豊かな自然環境は、私たちが健康で快適に暮らすための基礎基盤となるものです。淡海環境保全財団は、持続可能な地域社会を実現するため、自然共生、脱炭素、資源循環の3つの側面から相互に関連する取組を推進しております。今後とも、「滋賀からグリーン経済をつくる」を活動ビジョンに掲げるSGNと連携し、行政、事業者、大学、地域の皆さんなど多様な主体とともに、マザーレイクゴールズの達成に向け、地域に根差した取組を推進してまいります。



活動レポート

「グリーン購入+エシカルキャンペーン」 10月～12月 実践促進+暮らし方普及

エシカル消費を含めた持続可能な滋賀県発の新しい消費行動を日々の生活に定着させる目的で2019年から開始したキャンペーンも今年で5年目。県内小売店、会員事業者、滋賀県と県内全市町の協力を得て、ポスター、POPの掲示、店内放送、広報誌、ホームページ等による啓発を行いました。今年は《宣言STEP0～2》の3つのSTEPの呼びかけを行い、12,476名の方に参加宣言をいただきました。



《宣言STEP0》

- ① 買う前に、本当に必要かどうか考えます。

《宣言STEP1》あなたに出来る行動！

- ① マイバッグ・マイボトルを持って出かけます。
- ② 包装の少ないものや、つめかえ品を選びます。
- ③ 滋賀県産(地元産)の商品を選びます。
- ④ 「フェアトレード商品」を選びます。
- ⑤ 「買い物メモ」を持っています。
- ⑥ 近い所は、車を使わずに、自転車や徒歩でいきます。

《宣言STEP2》家庭で出来る行動！

- ① 「しがプラチャレンジの日(毎月1日)」に取組めます。
- ② 生ごみでコンポスト(堆肥)を作ります。
- ③ 天ぷら油等の使用済み食用油をリサイクルします。
- ④ 容器持参で買える量り売り(洗剤・食品等)を利用します。
※食品は清潔な容器に入れ、衛生的に取り扱います。
- ⑤ 家の照明をLEDに変えます。
- ⑥ マイボトルへの水分補充は、まちの給水スポットを利用します。
- ⑦ 家の断熱リフォームを行います。
- ⑧ 省エネ家電に買い替えます。(エアコン、冷蔵庫、テレビ、暖房便座等)
- ⑨ 電気は、再生可能エネルギーを選んで契約します。

●景品協賛いただいた会員の皆さま (50音順)

NPO法人愛のまちエコ倶楽部、株式会社 一花、
グリーン近江農業協同組合、株式会社国華荘 びわ湖花街道、
滋賀県地域女性団体連合会、琵琶湖汽船株式会社、
藤野商事株式会社、株式会社平和堂、輪の国びわ湖推進協議会
ご協力ありがとうございました



近江八幡会場「きてか〜な」
(10/20)



近江八幡会場「G-NET」
(11/26)



草津会場「イオンモール草津」
(12/16)

「グリーン購入+エシカルキャンペーン・イベント」

- 10月20日 JAグリーン近江ファーマーズマーケット「きてか〜な」店頭啓発 近江八幡会場
11月26日 「G-NETしがフェスタ2023」出展 近江八幡会場
12月16日 「草津市地球冷やしたい推進フェア」出展 草津会場

研究会活動報告 連携推進

◆エコ交通研究会

- ・毎月配信されるSGNメルマガに研究会メンバーが交代でコラム(「エコ通勤・エコトリップのススメ」)を掲載し、エコ交通研究会の情報を発信。
- ・近江鉄道線を活かした交通まちづくりフォーラム「まちづくりと交通の広場 しが 2023」 協力
主催：人と環境にやさしい交通まちづくりプラットフォーム滋賀
- 10月 9日 第1回フォーラム まちづくり×交通で地域を元気に!
- 10月14日 フィールドワーク 近江鉄道100円デイでいつもと違うまちを楽しもう
- 11月12日 第2回フォーラム 交通を変えることでQOLを上げたまち・福井
- 12月10日 第3回フォーラム 私たちのまちと交通どないする?
- 12月16日 第4回フォーラム みらいのまちと交通を考えよう



エコ交通研究会
ホームページ



◆食のグリーン購入研究会

- ・食農共育セミナー「子どもに・未来に・安心な食を」 2023年10月14日
(特非)HCCグループ・生活協同組合コープ自然派京都・(株)よつ葉ホームデリバリー京滋・
SGN食のグリーン購入研究会の共催

東京大学大学院農学生命科学研究科教授である鈴木宣弘氏により「持続可能で三方良しな農業のわけ〜日本の食料自給率と世界情勢〜」と題した講演及びフロアトークを行いました。SGNからは食のグリーン購入研究会リーダー 木田氏が閉会の挨拶、事務局 竹ヶ原が司会を担当しました。



食農共育セミナーの様子
(10/14)

◆生物多様性と環境・CSR研究会 ⇒詳細はP5



活動レポート 2

「会員講師派遣事業」 2023年度 暮らし方普及

2023年度は以下の方々に2大学へご出講いただきました。

・滋賀県立大学「環境経営学」（高橋卓也教授・SGN副会長）

講師の話の後、学生に対して「お題」が出され、グループ討論の後発表。その発表内容に対してゲスト講師から講評をいただきます。毎回学生からは様々なアイデアが出されました。

田中建材株式会社 谷口 圭汰氏

株式会社日吉 上森 勇輝氏

株式会社リコー 出口 裕一氏・石津 真吾氏

・京都産業大学「ソーシャル・ガバナンス論」

（宮永健太郎准教授・SGN運営委員）

講義及び宮永准教授との対談の2本立てとなっています。12月に動画配信されました。

NPO法人愛のまちエコ倶楽部 伊藤 真也氏

株式会社山久 森田 基仁氏



県大講師派遣の様子



京産大講師派遣(対談)の様子

全て出講日程順に掲載
講師をお務めいただいた皆様、
ご協力ありがとうございました。

「自治体部会連携 買うならエコリレー」 2023年6月～2024年3月 暮らし方普及

県内自治体連携で「パネル展示（庁舎等での展示）」と「ブース展示（イベントにて展示）」にてグリーン購入を普及啓発する「びわ湖一周『買うならエコ!』リレー」。6月下旬からスタートし3月でゴール予定です。

【2023年度掲示パネル】

- ①食品ロス削減 ②「地産地消」でエネルギーをうまくつかおう
- ③グリーン購入ってなあに? ④SDGsパネル(つくる責任・つかう責任)
- ⑤プラスチックごみを考えよう ⑥フェアトレードってなあに? ⑦啓発リレーパネル



自治体買うならエコリレー
（竜王町）

「自治体のグリーン購入担当者連絡会議」 2023年7月18日 実践促進

今年度は講師・参加者共に対面にて開催しました。環境省 大臣官房環境経済課 課長補佐 鎮西 武氏に①グリーン購入法の概要②令和4年度の主な見直し③グリーン購入の更なる発展についてご講義いただきました。後半の連絡会議では、啓発リレーや自治体アンケートについての報告がなされ、各自治体のグリーン購入の取り組みや印刷用紙の調達状況について意見交換を行いました。（参加者：23名）



自治体連絡会議の様子

GPプラン滋賀(2023年度実績) 県受託事業 実践促進

滋賀県のグリーン入札制度で優先的取扱いの対象事業者となる「グリーン購入実践プラン滋賀登録制度（略称：GPプラン滋賀）」。

2022年度から基礎研修会は動画配信となり、いつでもご受講いただけるようになりました。グリーン購入の学び直しに、新入社員研修にも役立ちます。

実践講座は前期3回、後期3回、今年度は基本的には会場受講、一部オンライン併催となりました。多彩な講師陣で大変好評でした。多数の会員の方に講師もお務めいただき、本当にありがとうございました。2024年度も多彩な講師陣を予定しておりますのでご期待ください。



GPP前期2の様子

●2023年度講師をお務めいただいたSGN会員の皆さま

- 前期1 滋賀県 琵琶湖環境部 環境政策課 志村 昌俊氏
- 前期2 匠堂合同会社 代表社員 北村 卓造氏
有限会社橋本燃料 専務取締役 橋本 翔太氏
- 前期3 セトレマリーナびわ湖 ゼネラルマネージャー 波田 裕明氏
- 後期3 滋賀県立大学 工学部 教授 徳満 勝久氏（SGNアドバイザー）

ピックアップ!

生物多様性

生物多様性と気候変動は
セットで取り組まなければならない喫緊の課題

◆SGNと生物多様性の取り組み

2015年夏に新しい研究会「生物多様性と環境・CSR研究会」が発足しました。設立発起団体一同による設立の目的とねらいは次のとおりです。

- (1) 生物多様性の基礎知識を学ぶ場の創出
- (2) 生物多様性分野を中心とするCSR活動の最新動向を知る場の創出
- (3) 会員同士の交流の場の創出

その年の12月7日に「次は“生物多様性”だ!—グリーン購入とCSR—」と題してキックオフセミナーを開催し、企業・行政・大学などから多数のご参加をいただきました。

2020年のコロナ禍に開催したシリーズ「グリーンリカバリー」vol.4「つながる・語り合う～コロナ時代のSDGs・生物多様性保全の展開～」では、「コロナ禍にこそ考える、当社のSDGs・生物多様性の取り組み」と題し、7つの会員事業者の事例を報告いたしました。2022年には「生き物観察が社会インフラ整備に!? 生き物調査アプリ『バイオーム』が広げる企業CSR活動」にて、バイオームの開発者やバイオームを用いた生物多様性保全に取り組む研究者を招き、生き物観察から広げる企業CSR活動・自然資本経営について学びました。

2022年12月には第15回生物多様性条約締約国会議（COP15）が開催され、もはや生物多様性保全は、気候変動問題と並行して取り組まなければならない喫緊の課題であることが改めて確認されました。

その直後2023年2月14日「生物多様性をめぐる世界の動きと日本企業～事業経営と緑地管理・生物多様性モニタリング～」と題したセミナーを開催し、2030年ターゲットの一つである「30by30」のロードマップについて環境省自然環境局のご担当者からお話いただいたのと同時に、ビジネスと生物多様性の関係について、世界のGDPの半分以上は自然の損失によって潜在的に脅かされているが、「ネイチャーポジティブ経済」に移行することで逆にビジネスチャンスが生まれるとお話いただきました。もう一つの大きな課題である「気候変動」と対比した情報開示（TNFD）と目標設定（SBT for Nature）について、また次期生物多様性国家戦略の骨格、企業がどのように取り組んでいったら良いのかについてもご説明いただいた後、企業や団体の取り組みについてお話をいただきました。

このように8年にわたる活動の中で、気候変動問題にばかりフォーカスが当たりやすいけれど、並行して生物多様性に取り組む必要性について一貫して訴えてきました。ちなみに現在の研究会メンバーは、アインズ株式会社・株式会社滋賀銀行・株式会社地域環境計画・株式会社ダイフクです（50音順）。



キックオフセミナーの様子

◆生物多様性と環境・CSR研究会

・バスツアー&セミナー 2023年10月30日

参加者：【第1部】39名 【第2部】28名 【会場：㈱ダイフク滋賀事業所】
『「ネイチャーポジティブ」時代の到来と、滋賀の企業・ビジネス』

第1部は環境省 生物多様性戦略推進室 福井俊介氏から「生物多様性国家戦略2023-2030と事業者の方への期待」と題してオンラインにて講演いただき、京都産業大学 生命科学部 准教授 西田貴明氏、㈱ダイフク サステナビリティ推進部 副部長 山本剛広氏を加え、京都産業大学 准教授でSGN運営委員の宮永健太郎氏のコーディネートでディスカッションが行われました。

第2部は生物多様性保全に熱心に取り組んでおられるダイフク滋賀事業所の取組紹介の後、いきものコレクションアプリ「バイオーム」を使って実際に生き物観察を実施し、ヤマトサンショウウオ保全池付近や事業所の見学をしました。

生物多様性と気候変動と人間社会を一体のシステムとして扱うことが効果的な政策の鍵であること、ここ数年は経済分野でも気候変動につぐ深刻な危機という認識であること、ただ実際に生物多様性を推進していくことの難しさについても意見が出ていました。生物多様性に取り組むことと、それをどう従業員に伝えていくのか、伝えることの重要性についても触れられていました。

研究会では一緒に活動して下さる仲間を募集中です! 今から生物多様性に取り組んでみたい、という方も大歓迎です。詳しくは事務局まで。



第1部 ディスカッションの様子
(10/30)



第2部 バイオームを使用した
昆虫・植物観察
(10/30)

Relay
Talk

SGN会員でつなぐ

リレートーク>>>

ダイキン工業株式会社 滋賀製作所からのご紹介

株式会社ラーゴ 生物多様性研究室

室長 阿部 司さん



生き物やそれらが暮らす景色を目の当たりにしたとき、心が動かされることは少なくありません。私たちは、資源の供給や気候の調整など、生物多様性から様々な恩恵を受けて暮らしています。株式会社ラーゴは、生物多様性に関する取り組みについて、企画から調査・分析・評価、保全計画の検討、環境改善（ビオトープの設計・施工や緑地管理、地域産苗の生産）、モニタリングなどのサービスを一貫して提供しています。観察会や講習会などの環境学習や、普及啓発のコンテンツ作成（ニュースレター、パンフレット、ポスター、生き物マップ、映像資料など）も行っています。

生物多様性は地域ごとに固有なもので、その保全へのアプローチもまた多様です。絶滅危惧種や地域の象徴的な種に焦点を当てた保全、緑地を地域の自然の一部として維持する取り組み、生物多様性の普及啓発、環境教育など様々です。地域や実施者の状況に合わせて、コンセプトや内容、目標を検討します。検討の過程では、科学的な論理だけでなく、取り組みが想いのこもったものになるように関係者とのコミュニケーションも重視しています。取り組みは長期に及ぶ場合が多く、モニタリングの結果と実施者や地域の変化などを踏まえ、順応的に計画を見直し、ゴールを目指します。

生物多様性は、生態系レベル、種レベル、遺伝子レベルの生き物の多様な有様の総称です。保全の取り組みでは、生態系と種のレベルはもちろん、遺伝子レベルの保全も実践しています。例えば植栽を伴う環境改善では、地域に適した草木の苗を生産して植えています。地域での種子採取や育苗、植栽などの過程を環境の取り組みとして実施者と協働で行う場合もあります。

弊社の技術者の多くは、国や地方自治体の環境に関する事業の委員やアドバイザー、学会の委員活動、大学の講師などにおいて、その専門知識や洞察力、企画力を活かして、生物多様性の保全に貢献しています。取り組みが効果的な保全になること、取り組みを通じて地域や事業所の環境意識が向上することを意識し、私たちは自然と共生する社会の実現を目指して取り組み続けます。

次回はセトレマリーナびわ湖さんをお願いします。

株式会社ラーゴ

滋賀県近江八幡市多賀町 396-2

TEL : 0748-33-6667

URL : <https://www.lago.co.jp/>

今さら聞けない環境用語集

- 【カーボンオフセット】** 温室効果ガスの排出削減を進めた上で、それでも排出してしまう排出量を、他の場所での削減・吸収活動により埋め合わせる取り組み。
- 【カーボンニュートラル】** 地球温暖化及び気候変動の原因とされている「温室効果ガスの人為的な排出が実質ゼロ（ニュートラル）である」状態。
- 【カーボンネガティブ】** 二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量よりも吸収量が全体として見た際に上回っている状態のことを指す。排出量をマイナスにする、という良い状態。類義語に「カーボンポジティブ／気候ポジティブ」
- 【カーボンフットプリント】** 製品やサービスの原材料調達から廃棄、リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量をCO₂排出量に換算し、製品に表示された数値もしくはそれを表示する仕組み。
- 【CO₂ネットゼロ】** 温暖化の原因である温室効果ガス（主にCO₂）を削減し、「人間の活動により排出されるCO₂の量」と「森林などが吸収するCO₂の量」がほぼ同じである状態。温室効果ガスの排出量を「正味ゼロ」にする温室効果ガスの排出量から吸収量や除去量を差し引いた合計をゼロにするという意味。
- 【ゼロカーボン】** 炭素の排出をゼロにすること、但し、二酸化炭素だけでなくその他の温室効果ガス全てを含んでおり、また、ゼロという表現も吸収量を差し引いた実質ゼロの考え方で用いられている。カーボンニュートラルと同じことを意味している。
- 【脱炭素】** 温室効果ガス（CO₂）の排出量そのものを減らしてゼロを目指すカーボンニュートラルとほとんど同じ意味で使われることが多い。

潮流

しがプラスチックチャレンジプロジェクト ～毎月1日は「しがプラチャレンジの日」です!～

滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課



世界では、プラスチックごみが川などを通じて内陸から海に流れ込み、様々な問題を引き起こしています。

こうした問題に対応するため、令和5年10月から、滋賀県は、県民の皆さんに対し、ライフスタイルを見直し、プラスチック代替製品の利用、マイボトルの持参などプラスチックごみ削減に向けた実践行動のチャレンジを後押しする「しがプラスチックチャレンジプロジェクト」を展開しています。

プロジェクトでは、毎月1日の「しがプラチャレンジの日」や10月の「しがプラチャレンジ推進月間」を創設し、プラスチックごみ削減の全県的なムーブメントに繋がります。

さらに、どんな取組をすれば良いか迷う皆さんに向けて、毎月1日には「プラチャレ通信」を発行しています! 滋賀県ごみ減量・資源化情報サイト「ごみゼロチャレンジしが」では、「プラチャレ通信」をはじめ、様々な啓発動画等を掲載していますので、ぜひご覧ください。

ごみゼロチャレンジしがはこちらから→
⇒<https://www.pref.shiga.lg.jp/gomizero/>



プロジェクトキャラクター
こがみ ちょういち
湖神 挑一

新規会員からひとこと

2023年9月5日から2024年1月31日までの入会者（団体名の50音順）

現会員数：443 団体
[企業 365、団体 56、行政 22]
(2024年3月1日現在)



鎌倉税理士事務所

税理士 鎌倉 建城 氏

はじめまして、鎌倉建城と申します。会計と税務の分野では、まだまだペーパーレス化が進まず、これからといったところですが、まずは自身の事務所から、紙を減らす工夫をしようと思っています。よろしくお願いいたします。



熊谷電工株式会社

代表取締役 熊谷 英夫 氏

当社は創業以来52年を迎え、その間誠実をモットーに常に技術向上を目指し、ISO9001、14001を取得し全社掲げて環境保全を考え、今後もグリーン活動に沿った展開をして参ります。



鉄屋商事株式会社

常務取締役 丹治 義明 氏

昭和34年創業以来、湖西地域でLPガス・器具販売やリフォーム事業を展開しています。省エネ器具の販売等を通して持続可能な社会の実現に貢献していきます。



株式会社 Piic

代表取締役 藤井 直哉 氏

クリエイティブ×マーケティングをメインに事業を行っております。滋賀県を盛り上げる、環境に配慮した企画ができるよう、環境への理解を深めていきます。どうぞよろしくお願いいたします。



会員発エコ商品情報

次号掲載
「エコ商品情報」
募集中!

～環境アプリ～

「エコ・アクション・ポイント」

ティーエムエルデ株式会社(高橋金属グループ)

エコ・アクション・ポイントとは、環境省が推進する、環境に配慮した行動・サービス利用に対して付与される全国共通のポイントプログラムです。登録されているエコアクション(環境配慮行動)を行い、二次元コードをスマホで読み取る(又は写真を投稿する)とポイントが貯まります。貯めたポイントは、アプリ内で寄付や商品・電子マネーなどに交換できます。また、アプリ内ではエコアクション活動履歴やCO₂削減量の確認ができます。

現在、エコ・アクション・ポイントに参加いただく企業様や自治体様を募集中です。活用事例などをご紹介しますのでお気軽にお問合せください。



〈お問合せ〉ティーエムエルデ株式会社 エコ・アクション・ポイント事務局
〒526-0105 滋賀県長浜市細江町864-4
TEL: 0749-72-8110
E-mail: sales@eco-action.jp
URL: <https://www.eco-action.jp/business/>

100%自然に還る・大麦ストロー

「すとりーている」

工房シーダーノ

「Straw=麦わら」のこと。大麦の収穫時に「これで子どものころジュース飲んでいた」という言葉を聞き、脱プラスチックを目指し2020年8月に商品化しました。

大麦は近隣農家さん栽培の無農薬無化学肥料のものを使用し、植物性のためプラスチックのストローと違い使用後は100%自然に還ります。マイストローとして持ち歩けるよう容器は紙筒製で、空色、茶色、桃色の3色です。また、紙のストローと比べ長時間使用しても溶けることもなく、口さわりも柔らかくて使いやすいと好評です。ぜひ一度お試しください。



〈お問合せ〉工房シーダーノ
〒524-0031 滋賀県守山市立入町117-7
URL: <https://straw-tail.sakura.ne.jp/>
HPお問い合わせフォームより

エコペン
おススメ!



啓発資材の仲間が増えました

環境に良いお買い物
グリーン購入って
な〜んだ?



古くなったパネル等の入れ替えを実施するとともに、新たな啓発資材の開発にも取り組んでいます。今回新たに2つ加わりました! テント生地
で軽くて持ち運びに便利!

A1サイズ
ひも付き 吊下げタイプ

プラスチックごみの現状
私たちにできること
〜あざせ!サーキュラーエコノミー(循環経済)〜



会員の皆さまは無料でご利用いただけます。環境関連のイベントや催し、研修などにご活用ください。

最新情報はSGNホームページ「会員ページ」-「6.啓発パネル等の貸出し、学習教材の提供」からご覧ください。

編集後記

「グリーン購入シンポジウム2022」がきっかけで自宅の断熱改修をしました。冷暖房使用時にどの部位から熱が「入る」「逃げる」割合が多いかという断トツで「窓」です。冬に熱が逃げる割合は6割近くが窓だそうです。(夏に熱が入る割合は7割を超えとのこと。)改修後はおかげさまで朝起きた時もあまり室温が下がらなくなり、家族みんな喜んでおります。環境と健康を守る重要性をとても感じる改修となりました。2024年も「住宅省エネキャンペーン」が始まっています。

この号で2023年度を振り返りましたが、皆さま如何でしたか?地球温暖化から沸騰化の時代となり、環境はもちろんのこと、「平和」や「防災」も共に考える必要性をひしひしと感じています。次年度は設立25周年です。次年度も会員の皆さまと共に前に進んで参りたいと思っています。

(事務局 / T)



編集・発行 / 一般社団法人 滋賀グリーン活動ネットワーク

〒520-0807 滋賀県大津市松本1-2-1 大津合同庁舎6階

TEL: 077-510-3585 FAX: 077-510-3586

Eメール: sgpn@oregano.ocn.ne.jp URL: <https://www.shigagpn.gr.jp/>

